

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりでは、「小1ギャップがないシームレスな共育」と「22世紀を生きる子どもたちに必要な学び」についてお伝えさせていただきました。

今回は「22世紀を生きる子どもたちに必要な学び」として注目されている「探究学習」について、シームレスな共育の視点から考えてみたいと思います。

なぜ「探究学習」が必要なのか

「探究学習」は、単なる暗記や受動的な学習から脱却し、自ら問題を発見し解決していく力を育てます。そして、仮説を立てて検証し、情報を整理しながら結論を導く過程で、論理的思考が鍛えられます。また、他者に自分の考えを伝えるプレゼンテーションやレポート作成を通じて表現力も向上します。さらに、教科の枠を越えた複数の分野の知識をシームレスに組み合わせることで、実生活の問題解決に役立てる力が身につくのです。こうした力は、変化の激しい未来社会において柔軟に対応できる資質・能力なのです。

川根本町型探究学習とは何か

「探究学習」とは、総合的な学習の時間において、子どもたちが自らの興味・関心に基づき課題を見つけ出し、その課題に対して調査・研究・考察を行う活動のこととされています。しかし、川根本町で行っている「探究学習」は、調査・研究・考察にとどまらず、そこから得た知見をもとに発信・提案したり行動したりすることを重視しています。



この写真は2月に川根高校で行われた、連携中学と高校が地域の皆さんを交えて行った交流会での一コマです。「川根本町の伝統芸能である鹿ん舞を広く知ってもらうにはどうしたらいいか」という問いを立てて探究した成果をメンバーに聴いてもらっている場面です。この後、グループのみんなで意見交換を行いました。こうした探究活動で育つ力は、認知能力（見える学力）だけではありません。「この地域が大好き」「人と関わるって楽しいな」「人に喜んでもらうとなんて気持ちがいいんだ」等、いわゆる非認知能力（見えない学力）が育つのです。

「この地域が大好き」「人と関わるって楽しいな」「人に喜んでもらうとなんて気持ちがいいんだ」等、いわゆる非認知能力（見えない学力）が育つのです。

令和8年度が始まりました。今年度も様々な「探究学習」が展開されます。地域の皆さん、是非、注目してみてください！



第4号も最後まで読んでいただきありがとうございました。これからも川根本町のシームレスな共育について、お伝えしていきたいと思います。

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail :

k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp